

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101914		
法人名	社会福祉法人 安原福祉会		
事業所名	あいの里1階		
所在地	和歌山市相坂651-3		
自己評価作成日	令和3年2月23日	評価結果市町村受理日	令和3年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JikyosyoCd=3070101914-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年4月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人が高齢者介護において最重要と考えているのは、地域に向けた施設、地域と共に支えていける施設を目標としています。同法人のデイサービスセンターや小規模多機能型事業所が隣接し、日常的に交流が深く、行事の際は地域の方々とともに賑やかに行われています。地域住民に理解して頂くことが出来るよう、自治会長、民生委員、小、中学校、幼稚園との交流を重視しています。現在コロナウィルスの影響で交流は控えています。日常の介護においても、本人の自己決定を大切に、入所の方が日常生活にストレスを抱えることなく安心して日々を過ごせるよう支援しています。本人、家族が施設内で看取りを希望される場合については、本人、家族、医療機関、事業所スタッフと話し合い積極的に受け入れ態勢をとっています。コロナウィルス感染予防として、低濃度オゾン発生装置エアネスを使用しています。眠りスキャンも導入され眠りスキャンを活用し安全な介護に務めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「自分らしく過ごすあいの里」との理念を大切にしており、職員は利用者の言動を観ながら本心を汲み取れるよう話し合いを重ね、介護計画を作成する際には家族の意向や医師、看護師からも意見を聞き利用者の思いにそった支援に繋がるよう努めています。新型コロナウイルス感染症の流行により今まで行っていた地域交流や日常的な散歩や買い物等の外出ができなくなりましたが、広い敷地内での散歩や外気浴、菜園や花壇の手入れなどを行いながら外に出る機会を作っています。また面会の方法も希望を聞きながら玄関先で感染症対策を工夫し、家族との関わりも大切に支援しています。重度化した際には医師と家族、職員が其々話し合いの機会を持ち方針を決め、医療との連携を図り思いにそった看取り支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「自分らしく過ごすあいの里」として、個人々の個性を大切に職員間も和を持って協力し合い日々実践している。	ホーム独自の理念として「自分らしく過ごすあいの里」を掲げ、以前には理念の見直しを行いました。そのまま継続しその人らしい暮らしへの支援を大切にすることを再認識に繋がっています。職員は利用者の言動を観ながら本心を汲み取り話し合いを重ね介護計画にも反映しながら理念の実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染予防のため地域の皆さんとの交流は図っていません。	コロナ禍以前は地域の展示会への作品の出店や見学、神社の祭りや餅拾いに参加したり小中学生のボランティアの来訪があり交流をしていました。現在は法人経営者が地域住人であり情報を得られる状況であり、感染症の流行が収束した時には交流を再開していきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の神社の餅拾い毎年参加してましたがコロナウィルス感染予防として今年は参加していません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議の実施、利用者さんの状況や活動報告を行い地域の方や役員、家族、包括支援センターなどから色々な情報をもらいサービスの向上に活かしているが、現在はコロナウィルス感染予防のため開催はしていない。	運営推進会議は家族や民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催していました。現在は会議の月に利用者の状況や活動、近況報告等を書面にまとめ法人内で情報共有しており、今後新型コロナウイルス感染症流行が収束した際には会議を再開したいと考えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、地域包括センターと連携を取りケアサービスしていく上でのトラブルや実践について報告し、助言して頂く事で行政との透明化を図っている。	市町村担当者には運営や制度のこと等わからないことは主に電話で聞いており、時には役所に出向き相談しています。感染症等の注意喚起は郵送やファックスで届き、職員に周知しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け会議をおこなっている。年2回の身体拘束の研修は各ユニットで行っている。	年に3回身体拘束についての研修を行い、3か月毎に身体拘束委員会を開き、身体拘束についての理解を深めています。日中玄関の施錠は行わず、外に行きたい様子の利用者には傾聴したり散歩に出掛けながら拘束感の無いよう支援しています。行動を止めてしまうような言葉かけがあれば都度注意しています。利用者の睡眠状況を把握できる介護ロボットを導入し、安全な移動が支援できるように活かしています。	

あいの里グループホーム1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受けた職員が内部研修に参加し報告し、他の職員に虐待防止の徹底を図っている。防犯カメラを設置し虐待防止に役立っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見の必要性は理解している。職員同士で話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、契約書・重要事項説明書・事業所の方針について説明を行い、理解・納得した上で契約をしている。改正時には、変更の同意書に署名・捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には訪問時や電話対応時などで常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気作りをしている。家族の方の意見、要望等は職員同士で話し合い、実現に向けて考えている。	利用者の意見や要望は日々の関わりの中で聞き、中でも日々チラシを見て献立の希望を聞き食事作りに反映しています。家族には毎月写真の載せた手紙を送り利用者の様子を伝え、面会時や電話で意見や要望を聞いています。職員の名前と顔が一致しないとの意見から玄関にわかるように掲示したり、玄関の飾りを充実させる等コミュニケーションを図りながら意見を運営に活かしています。またコロナ禍の面会についても希望を聞き状況を判断しながら工夫行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の声に耳を傾けケア会議や毎日の申し送りで話し合い、さらに管理者会議で提案して、運営に反映させている。	毎日の申し送りで職員間で意見を出し合い日々解決したり、案件によっては毎月行うユニット会議で検討し業務改善やサービスの向上に活かしています。物品や車、健康管理、掲示物等の担当を決めて職員が主体的に意見や提案をしています。また管理者は日々職員とコミュニケーションをとり、様子を観ながら個別の意見も聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	幹部が各事業所を巡回し職員と話す機会を持ち、個々の考えや思いを聞き状態把握につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウィルス感染予防のため、外部研修に職員が受講することがなく、研修が中止となるが多かった。		

あいの里グループホーム1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染予防のため、グループホームの研修会や外部研修等への参加は控えています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とよく話し合い、意向を聞き取りここでの生活を楽しんでいただけるように計画を考え、安心安全に生活できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや支援してほしい事等をよく聞き取りサービス導入時に計画に盛り込んでいく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今何を必要としているか、優先順位を考え、まず必要としている問題から取り組むようにしている。本人が安心した生活を送れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる範囲内で職員と一緒に料理や掃除、洗濯物を干したり畳んだりと色々お手伝っていただき役割を持つことで本院が生き活きと日常を生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密にとり本人を支えていく上で協力していける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染予防の為、家族さんや知人、友人の面会はできていません。	コロナ禍以前には友人や元同僚等の来訪があったり、自宅近くにドライブや馴染みの店への買い物等に出かけていましたが、現在は面会を制限しており外出も感染症予防対策から行えていない状況です。家族から情報を得て利用者と馴染みの方の話をしていますが、感染症収束後には元のように面会や外出の支援をしていきたいと考えています。	

あいの里グループホーム1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話をしながら日常生活の手伝いや体操レクリエーションに参加できるような支援をおこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も施設を訪問してくれ、家族から感謝の言葉を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望を聞き希望がかなえられるか否かを見分け、少しでも要求に答えられるように努めている。	入居前に統括と管理者が本人や家族と面談を行い生活歴や趣味嗜好習慣などを聞き、また利用者が利用している施設や担当ケアマネジャーから情報を得て思いや意向の把握に努めています。入居後は職員が日々の利用者との関わりで得た情報や24時間の中で生活リズムがわかるような記録を行い、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの馴染みの暮らしを家族に聞いたり担当の居宅支援専門員に情報をもらいこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式等を取り入れて一人一人の出来る事又好きなことをに挑戦してほしい事等話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、会議や藻王仕送り等で話し合いニーズを抽出している。又家族、本人とは電話や訪問時に話を聞き意向を取り入れ介護計画の作成に当たっている。	本人の思いや家族の意向、アセスメントの基サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。日々計画の実施状況を記録するよう努め、個々の状況により1～3か月毎にモニタリングを行い、6か月～1年で見直しています。見直しには再アセスメントを行い、家族の意向を確認し医師や看護師の意見を照会しサービス担当者会議を開いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の間で申し送りノートを利用して情報の共有をして個々の気づきやニーズの変化等を話し合いニーズの変化があればその都度見直している。		

あいの里グループホーム1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調急変があった場合は、医療を受けることができるよう柔軟に対応している。グループホームの待たれている方も多いので法人内で連携を行う場合もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容院から訪問美容に来て下さり散髪を行っている。現在はコロナウィルス感染予防の為散髪日の回数は少なくなっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の希望を聞き、施設の協力医か以前のかかりつけ医の継続かを決めてもらい対応している。緊急時に専門医の受診が出来ない場合職員が付き添い、状態を説明し対応している。	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明していますが、現在は全員が協力医の往診を月に2回受けています。利用者の体調不良等の際には管理者に連絡があり、直接協力医に連絡を取り指示を受け対応しています。週に1回訪問看護師による健康管理を受け、必要に応じて歯科や眼科の往診、訪問マッサージを受ける方もいます。専門医への受診は職員が支援し、家族の同行も依頼しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護ステーションの看護師により、健康状態の確認や助言、対応等を行ってもらっている。職員が状況等を説明しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連絡室と連絡を密にとり入退院の連絡や入院時の本人の情報交換をし、病院関係者との関係づくりを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し事業所が対応し得る支援について説明をお行い相互に納得し支援を行っている。本人や家族様の意向を踏まえ医師、職員が連携をとり安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	入居時に重度化した際や終末期の対応について説明し、重度化した際には医師と家族、職員が其々話し合いの機会を持ち方針を決めています。看取り支援の経験があり、家族にも感染症対策を実施したうえで面会に来てもらい、医師や看護師と連携を図り支援しています。年に1回看取り支援についての研修を実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時は救急車の手配、職員の確保等マニュアルを作成して明示している。応急処置や初期対応の訓練もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力依頼し、年2回入居者と共に避難訓練を独自に行っている。地域の方にも協力してもらえようにつとめている。運営推進会議で地域に協力を呼びかけているが現在はコロナウィルス感染予防のため地域との連携は少なくなっている。	災害時対応のマニュアルを整備し、年に2回実施する消防訓練は昼夜を想定し通報や初期消火、利用者も一緒に避難誘導を行っています。コロナ禍以前には消防署の立ち合いがあり運営推進会議で地域の方に案内を行っていました。また法人として水や食料の備蓄の他数年前の地震による停電の経験を基に対策を実施しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに配慮して排泄、入浴、更衣時等、援助が必要な時も本人を尊重して行っている。。職員同士も声かけに配慮することを注意し合っている	接遇マナーや個人情報保護、認知症ケア等の研修から利用者の尊厳やプライバシー保護について職員は学んでいます。利用者は目上の人であることを念頭に置き、丁寧な言葉遣いを基本に方言も使いながら信頼関係を築けるよう努めています。不適切な対応があれば主に管理者が注意していますが、職員間でもその場で気付きを言えるよう心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が行えるように、その人に合わせた声かけを行なうよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康状態、混乱、不穏状態等を常に職員間で話し合い、よりよい状態で過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用されヘアスタイルも本人の希望を聞き、カットして頂けるようにしています。洋服の選択は入居者に希望を聞き家族様に伝え持ってきていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理ができる利用者と一緒に食事をつくってもらったり、盛り付け、配膳、片付け等もできる方に手伝ってもらっている。	食材は発注したり職員が買い物に行き、その日に冷蔵庫の中を見て利用者にもアドバイスをもらいながら献立を決め食事作りをしています。現在の利用者は食事作りには携われませんが食器洗いなどのできることをしてもらい、職員と一緒に食事を食べ和やかな食事時間となっています。庭やプランターで作った野菜や旬の食材を使用したり、七草粥やちらし寿司等の季節行事に合わせた食事を提供しています。またホットケーキ等のおやつを手作りすることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の状態や力に応じて、トロミを入れ、ミキサー食にし、声かけをしたり食事介助を行っています。水分量もその都度確認し、一日の摂取量を把握している。		

あいの里グループホーム1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、昼食後、就寝時に行っている。入居者に応じ声かけ、介助にて口腔ケア行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表チェック表を記入し、その人に合ったパターンで声掛けしトイレ誘導している。	各居室にトイレがあり、排泄チェック表を用いてパターンを把握し個々のタイミングでトイレに行けるように支援し、重度の方も立位がとることができればトイレでの排泄を支援しています。申し送りや会議時に支援方法等を検討し排泄用品の変更の際には家族に相談しながら個々に合った支援に努めています。布の下着の方もおり現状維持できるように支援し、入院となり退院後は元の状況に戻るよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には毎日ヨーグルトをだすようにしたり、繊維質の多い食材を使うこともこころがけている。手引きにての歩行や体操等もおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、体調を考えながら希望に沿えるよう入浴してもらっている。湯温にも気をつけている。	入浴は週に2～3回日中の時間帯を基本に支援し、一人ずつ湯を入れ替えゆっくり会話を楽しみながら入ってもらっています。現在拒否する方はおらず、希望により入浴回数を増やすことも可能であり、また肌に合ったシャンプー等を持参する方もいます。坪庭の花を眺めたり柚湯やしょうぶ湯の季節湯を楽しみ、時には入浴剤を使用することもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人々でお昼寝の時間を設けている。体力のある人は昼寝をしないで夜間ぐっすり眠れるよう配慮している。体調の優れない人には居室での食事提供もおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人が確実に薬を服用できるように飲み込むまで見届け困難な人には形態を変えて、プリン、ヨーグルトに混ぜて服薬して頂く。薬の説明書は提供してもらい各職員が把握できるようにしている。服薬時は二人で確認して誤薬しないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除。カーテンの開閉、新聞の取り入れ洗濯物干し、畳み等出来ることを各入居者に頼んでいる。又お誕生会の開催、利用者の要望に沿えるお弁当を考え提供し生活に潤いをもたしている。		

あいの里グループホーム1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為外出はできませんが庭に出て散歩やおやつを食べたり、ゴミ捨てに同行してもらったり少しでも気分転換になるようにしています。	コロナ禍以前は日常的な散歩や買い物の他、外出行事も行っていました。現在は広い敷地内の散歩や外気浴を行ったり、時にはドライブに出かけています。またベランダの菜園の世話や洗濯物を干す等外気に触れる機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染予防のため、買い物に行くことはありませんでした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談し電話の対応ができる時間帯にはいつでもかけられるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は入居者一人一人の体感温度が違うのでその人に合わせて、膝掛け上衣等で工夫している。大きな窓があり花や立木のある。季節により様々な野菜を育て中庭から季節を感じられるようになっている。	共有空間には生花を飾ったり利用者と一緒に作成した壁絵を掲示し季節を感じられるようにしています。利用者同士の関係性や個々の様子を見ながらテーブルの配置や座席を決め、広いリビングにソファを置き寛いだりベランダに出る等思い思いに過ごしてもらっています。毎日夜間に丁寧に掃除し、日中換気したり利用者も一緒に掃除を行い清潔を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室でテレビを観られたり、ソファで新聞を読まれたり中庭で入居同士が話をされたりくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使用されていた、タンスや鏡台、家族の写真を持ってきて頂き、安心して生活して頂けるようにしている。	入居時に使い慣れたものや馴染みのものを持ってきてもらうよう説明し、タンスやテレビ、棚、机、椅子、冷蔵庫、仏壇等、持参されたものを本人や家族と相談しながら配置しています。写真や誕生日カードを飾ったり、孫のアルバムや四国の巡礼の資料等を家族が持ってきて傍に置き時折見ている方がいる等、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の横に名札をいれ本人が自分の部屋と確認できるようわかりやすくしている。洗濯物畳み、干し、食器洗い食事の用意、配膳等生活全般を職員と共にする事で安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		